

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社ミットヨ 郷原工場

(2) 事業所の所在地

広島県呉市郷原町一ノ松光山10626-62

(3) 業種

2734 精密測定器製造業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、令和4年(2022)度から令和12(2030)年度までの9年間とする。

3 計画の基本的な方向

環境方針

— 環境に対する私達の行動 —

株式会社ミットヨは、「精密測定で社会に貢献する」を経営理念として掲げ、精密測定機器の開発設計、製造、販売、サービスを通して、精密測定機器をお客様に提供しています。株式会社ミットヨに働く私達は、社是に謳う「良い環境」に拘り、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つである事を認識し、地球環境に影響のある事業活動、製品、及びサービスの全てにおいて、全員参加で環境マネジメントシステムの継続的維持改善を図り、地球環境保護と環境汚染の予防に取り組みます。

1. 私達は、事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を低減させるために、自主的な環境マネジメントシステムを構築します。
2. 私達は、事業活動全般について、法規制、条例、並びに当社として受け入れを決めたその他の要求事項を順守します。
3. 私達は、地球環境の保全及び環境汚染を予防するために次の事項に取り組みます。
 - ①二酸化炭素排出量の削減
 - ②環境配慮型製品の開発・設計
 - ③省資源・省エネルギーの推進
 - ④廃棄物の削減・再資源化の推進
 - ⑤有害化学物質の削減
4. 私達は、環境目標を設定し、定期的に見直し、環境パフォーマンスの継続的向上を図ります。
5. 私達は、環境方針の教育・啓発活動を行ない、当社で働く人(常駐外部社員を含む)及び当社のために働くすべての人に対し、周知します。
6. 環境方針は、社内外に公表します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成 25（2013）年度	令和 3（2021）年度
二酸化炭素	2,671	3,399

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
二酸化炭素	—	—

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成（ ）年度	令和（ ）年度
メタン	—	—
一酸化二窒素	—	—
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)	—	—

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 () 年度)	削減目標		目標年度 (令和 () 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

製造原価

単位：排出量(t-CO₂)，原単位数(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 25 (2013) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 12 (2030) 年度)		
	排出量 (a)	原単位数 値 (b)	原単位数 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位数 見込数値 (f)	原単位数 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	2,671	1.224	2181.99	-0.01	2,431	1.114	2182.19
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量	2,671	1.224	2181.99	-0.01	2,431	1.114	2182.19
エネルギー消費原単位 (原油換算k l)	-	-		0.000	-	-	
目標設定の考え方	原油換算エネルギー使用量を生産高原単位で 2013年度を基準に2022年度から2030年度までの9年間で9%削減する						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	省エネルギーの推進 (地球温暖化防止)	原油換算エネルギー使用量を 生産高原単位で2013年度を基 準に2022年度から2030年度ま での9年間で9%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・1工場2階空調機更新による電力使用量の削減 ・エアリーク対策による電力使用量の削減 ・アイドリングストップ等エコドライブ ・工場内の省エネパトロールの実施 ・コンプレッサー時間設定による台数制御で電気使用量の削減 ・本来業務による改善活動（不良数・不良率低減対策、生産性の向上）
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

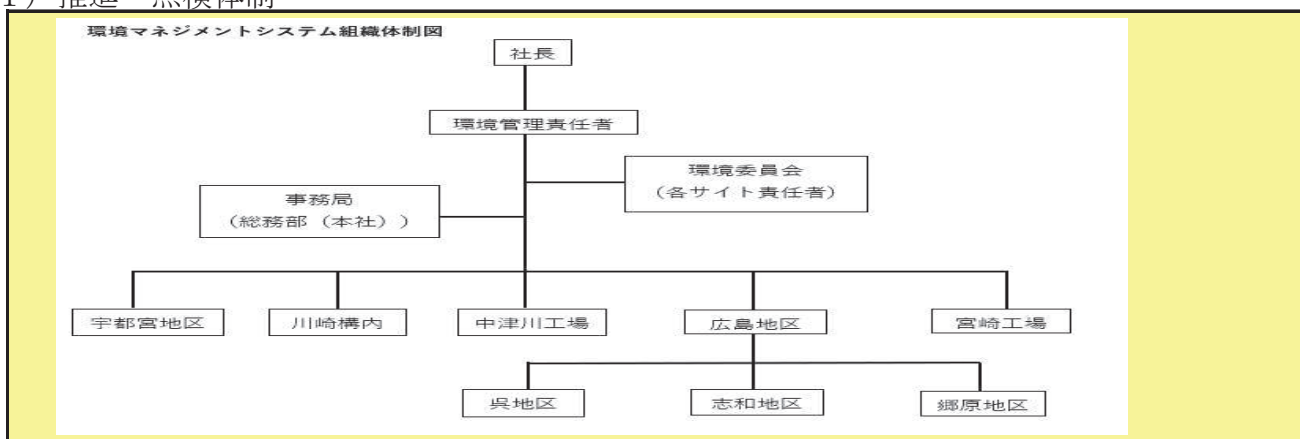
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量を生産高原単位 で2013年度を基準に2022年度 から2030年度までの9年間で 9%削減する	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物分別の徹底（古紙・段ボールの有価物化）、分別パトロールの実施 ・本来業務による改善活動（不良数・不良率低減対策、生産性の向上）
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

前年度 環境目標実績報告書⇒達成状況(エネルギー使用量・達成未達要因)
環境影響抽出・評価表により環境目標設定を検討し次年度の目標を決定する
毎月の環境月次報告会で実績報告と今後の取組みの検討

(3) 計画書等の公表

郷原地区→広島地区→本社事務局
郷原地区：実績の掲示・月次報告会

